

談話室



“DTP の現状と動向” に対するコメント†

小町 祐 史†

本誌・デスクトップパブリッシング特集の“DTP の現状と動向”¹⁾の 4.5 “フォント, グリフ” に記述されたフォントの標準化に関する内容につき, 誤解と判断される箇所を見出した. またこれまでの筆者の経験では, 情報処理・出版分野の方々の話しの中にも, 類似の誤解が見受けられることがしばしばあった. そこで, 下記 AFII の Board Member としての立場から, 特にコメントを談話室に寄稿して, 誤解の拡散を防ぎたい.

(1) AFII

AFII (Association for Font Information Interchange) はフォント著作権の登録をする機関ではない. AFII は, グリフ (Glyph) とグリフ集合 (Glyph Collection) の識別子の登録作業を行う. それらの登録手続きを ISO/IEC 10036²⁾ が規定する.

(2) グリフ

ISO/IEC 9541-1³⁾によれば, グリフはデザインとは独立の抽象グラフィック・シンボルである. そこで字形, 字体を, JIS X 0208-1983⁴⁾の解説に

示されたように定義する (それぞれ, 注1, 注2) とき, グリフは字形ではなく, 字体にはほぼ等しいものとするべきである⁵⁾.

注1: 字形

実際に文字が書かれたり印刷されたりしたときに実現する図形.

注2: 字体

表現された字形の基礎にある文字概念で, 個々の文字を識別する要素としての点画の組み合わせ方をいう. すなわち, 字体は抽象的なものであり, 具体的には字形として実現する.

参考文献

- 1) 村山 登: DTP の現状と動向, 情報処理, Vol. 31, No. 11, pp. 1483-1494 (1990).
- 2) ISO/IEC DIS 10036, Procedure for registration of glyph and glyph collection identifiers, ISO/IEC (1990).
- 3) ISO/IEC DIS 9541-1.2, Font information interchange—Part 1 Architecture, ISO/IEC (1990).
- 4) JIS X 0208-1983, 情報交換用漢文字符号系, 日本規格協会 (1987).
- 5) 異体字に関する調査研究報告書, 日本規格協会 (1990).

(平成3年1月9日受付)

† Comments on “DTP Today and Future” by N. Murayama by Yushi KOMACHI (Matsushita Graphic Communication Systems, Engineering Research Laboratory).

† 松下電送(株)技術研究所

小町氏のご意見に対するコメント†

村山 登†

1. AFII について

全く小町氏のご意見のとおりで, AFII は機関の名称は Association for Font Information Inter-

change なのに ISO 10036 が規定する Glyph Identifier の登録をする機関です. しかしデザインと密接に関連する Font Information のための AFII がなぜデザインと独立な Glyph の Identifier を登録するのでしょうか. 今に Font Information も扱うつもりなのでしょうか.

† Comments on Dr. Komachi's Opinion by Noboru MURAYAMA (RICOH R & D Center).

† (株)リコー中央研究所

2. Glyph について

Abstract Graphic Symbol の新造語 Glyph は字体のことであるという意見には賛成できません。Glyph の定義は字そのものであり、字の属性や形式である字体ではありません。字体とは字の形式のことで、参照した辞書によると字の骨格形式である正体、慣用体、俗体などのほかに、書体の違いを示すこともあり、いずれにしろ字そのものではなく字の属性のことです。字の属性には骨格形式、書体、サイズ、変形方式などいろいろありますが Glyph は骨格形式を区別した字のことです。また、字に対応する“Character”は、Abstract Symbol のことなのに“Glyph”を新造したのが混乱のもとです。Font は Fountain→Fount→Font

が示すように字の物理的貯蔵源のことで、この概念は日本には無かったので字源とでもしたいところですが同名の辞書があります。まとめると次のようになります。

字 : Glyph (Character)
 文字: Letter
 数字: Numeral
 記号類: Symbols (Signs)

字体: Glyph Type
 字源: Font
 書体: Font Style
 字形: Glyph Shape

(平成3年1月28日受付)



小町 祐史 (正会員)

昭和 45 年早稲田大学理工学部電気通信学科卒業。昭和 51 年同大学院博士課程終程修了。以来、東京理科大学講師、東京大学生産技術研究所助手を経て、現在、松下電送(株)技術研究所次長、並びに(株)テレマティーク国際研究所室長。フォント等の国際標準化作業に参加。AFII ボードメンバ。工学博士。IEEE、電子情報通信学会、電気学会、日本音響学会各会員。



村山 登 (正会員)

1932 年生。1957 年東京大学工学部応用物理学数理工学コース卒業。同年小野田セメント(株)入社。調査部統計課にて SE 業務に従事。1964 年(株)リコー入社。オフィスコンピュータ、デジタルファクシミリ、ワードプロセッサ等の研究開発に従事。SE 課長、企画室長、開発部長を経て現在、中央研究所技師長、インテグレーションセンター所長。画像符号化、フォント関係の論文多数。共著「光ディスク技術」、「イメージング」等。電子情報通信学会、画像電子学会各会員。画像電子学会理事。